

川崎臨海部産業競争力強化促進補助金の交付を決定しました

本市では、川崎臨海部に長年立地する企業事業所の高度化・高機能化を目的とする設備投資を促進し、川崎臨海部の産業競争力を強化することを目的として、設備投資を行う場合に、補助対象経費の3%（研究所においては5%）の補助金を交付する、川崎臨海部産業競争力強化促進補助金の制度を令和3年度に創設しています。

この度、同制度に基づき、三菱化工機株式会社から申請を受け、事業計画について審査を行った結果、次世代製品の開発を一層加速させることなどにより、産業競争力の強化が促進されるとともに、温室効果ガスの排出量削減及び本市への波及効果も期待できる投資であると認められたことから、令和6年7月30日付で補助金の交付を決定しました。

なお、同制度に基づく交付決定は、これで4件目となります。

1 今回の事業計画の概要

(1) 事業所名（所在地）

三菱化工機株式会社 本社・川崎製作所（川崎市川崎区大川町2番1号）

(2) 事業内容

環境に配慮した工場をコンセプトに、省エネや脱炭素化、DX化を推進するモノづくりの中心拠点として、次世代製品の生産や、新規事業の探索と開発を一層加速させ、新たな成長事業を生み出す拠点づくり等のため、本社・川崎製作所の建替えを行う。

(3) 事業着手予定日 令和6年8月1日

(4) 事業完了予定日 令和10年7月1日

(5) 投下固定資産額 15,014,164,600円

(6) 補助金交付決定額 353,867,172円

2 企業の概要

(1) 企業名・代表者名 三菱化工機株式会社 取締役社長 田中 利一

(2) 資本金 3,956,975,000円

(3) 設立年月日 昭和24年9月1日

(4) 業種 機械製造業

3 参考

(1) 川崎臨海部産業競争力強化促進補助金の概要

https://www.city.kawasaki.jp/590/cmsfiles/contents/0000127/127577/_A4_seidol_omote_05_ryoumen.pdf

(2) 過去の交付決定一覧

交付決定事業者	交付決定額	交付決定日
日本冶金工業株式会社	69,939,501円	令和3年5月28日
日本冶金工業株式会社	311,532,152円	令和4年3月29日
株式会社日本触媒	93,028,800円	令和6年7月12日

【問合せ先】

川崎市臨海部国際戦略本部事業推進部 小山
電話044-200-0524

ものづくりのこだわりを、ヒト、社会、そして未来へ。

 **三菱化工機株式会社**

三菱化工機ニュース（プレスリリース情報）

No.514 2024 年 8 月 1 日
企画部 広報・CSR 課

三菱化工機本社・川崎製作所の再編計画について

三菱化工機株式会社（代表者：田中 利一 所在地：川崎市、以下「当社」という）は、本社・川崎製作所の再構築に関する基本計画（以下「計画」という）についてお知らせします。本計画は、当社が掲げる 4 つの戦略的事業領域の確立に向けた事業ポートフォリオ改革と、新たなモノづくり戦略を推進するための戦略的な事業投資です。化学工業機械の国産化を目的に当社が誕生したこの地で、創立 100 周年を迎える 2035 年や、その先の 2050 年に向けた成長の歩みを着実に進めてまいります。新施設の完成は 2027 年を予定しています。

■再編の目的

当社は 1935 年（昭和 10 年）の創立以来、現在の本社・川崎製作所をモノづくりの主力工場として、さまざまな製品の開発・製造を行ってまいりました。2012 年には、当時三つあった工場の一つを、当社の主力製品である油清浄機「三菱セルフジェクター」専用工場として建て替えを行いました。残る工場、事務所棟、研究棟なども老朽化が進んでおり、建築物の根本的な見直しが必要となっていました。

当社グループが目指す姿を策定した「三菱化工機グループ 2050 経営ビジョン」の実現のためには、カーボンニュートラル社会に寄与する新しい技術や製品の開発が不可欠であり、開発の拠点や新しい製品の製造拠点が必要となることから、今回、本社・川崎製作所の全面的な再整備を決定いたしました。



新本社・川崎製作所の外観図（イメージ）

お問い合わせ先

 **三菱化工機株式会社**

川崎市幸区堀川町 580 番地
ソリッドスクエア東館

企画部 広報・CSR 課
電話 044-333-5377 Fax 044-577-7754

■再編計画の概要

本計画では本社・川崎製作所内の各棟(SJ 工場・水素ステーション一帯を除く)を解体し、当社事業に必要な機能(工場・事務所・研究施設)の建て替え配置を行います。

1. 事務所研究棟



事務所研究棟(イメージ)

事務所及び研究施設の機能を集約することで、それら機能に要するスペースや食堂、会議室など付帯設備の最適化を図ります。また、従業員の多様な働き方や自主・自律・自発的な活動に応える空間デザインを計画し、従業員エンゲージメントおよび労働生産性の向上を図ります。

2. 工場実験棟



工場実験棟(イメージ)

環境に配慮した最先端工場をコンセプトに、省エネや脱炭素化、DX 化をリードするモノづくりの中心拠点として、次世代製品の生産を担うほか既存の遠心分離機やろ過機、フィルター等の産業機械及び船舶環境規制対応機器の組み立て機能を担うものとします。また、当社の既存あるいは新規技術と当社経営ビジョンに掲げる戦略的事業領域を軸に、外部機関との共創・相乗効果を図る多目的な実験・研究フィールドを併設します。新規事業の探索とともに次世代

製品の開発を一層加速させ、戦略的事業領域の確立と新たな成長事業を生み出す拠点づくりを進めます。

■自然との共生と従業員エンゲージメントの向上



既存の SJ 工場と新設する 2 つの建物が囲う形で緑地を整備します。当社の経営ビジョンの実現には「自然との共生」の視点は必要不可欠であることから、就業時においても自然とのふれあいが可能な環境とします。また、事務所研究棟前には交流テラスを設置するほか、ルーフバルコニーの設置も計画しています。外部の景観を楽しめるつくりとすることで、従業員の創造性やモチベーションを最大限に引き出し、リラックスした空間で良好なコミュニケーションを図ることが可能な、魅力あふれる職場環境の整備を行います。

お問い合わせ先

 三菱化工機株式会社

川崎市幸区堀川町 580 番地
ソリッドスクエア東館

企画部 広報・CSR 課
電話 044-333-5377 Fax 044-577-7754

■製造部門と研究開発部門が融合した、成長戦略を推進する設備

工場実験棟では、経営ビジョンの実現に向けて成長戦略を推進する、製造部門と研究開発部門の各機能が連携を行いやすい構造、配置を計画しています。また、産学官の連携を実践する実験設備をはじめ、オープンイノベーションの中核となる施設として、コミュニケーションやディスカッションが活性化されやすい環境を構築します。

■建築物の構造・種別

名称	構造種別	階数	最高高さ	延べ面積	完成予定時期
事務所研究棟	鉄骨造	地上 4 階 (内塔屋 1 階)	約 20m	約 7,900 m ²	2027 年 2 月
工場実験棟	鉄骨造	地上 3 階 (内塔屋 1 階)	約 16m	約 5,800 m ²	2027 年 2 月

■環境配慮と工程管理

本計画では、稼働している事務所・工場の機能を停止させることなく、各棟を建設し機能を移行させていく必要があります。そのため、各工程の検討を十分に行い、工程遅延による事業活動への影響が起きないように計画します。また、周辺環境に配慮し、安全対策や騒音・振動対策を十分に実施して再編を進めます。また、最新の省エネ、創エネ技術の導入を検討し ZEB※ Ready の取得を目指し、将来的には Nearly ZEB の取得も視野に入れて、計画を実施します。

※ZEB: Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。ZEB Oriented → ZEB Ready → Nearly ZEB → ZEB と達成状況に応じて 4 段階で定義されています。

■本リリースの取り組みを通じて、当社は SDGs(持続可能な開発目標)における次の目標に貢献します。

- ・目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ・目標 8 働きがいも経済成長も
- ・目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ・目標 13 気候変動に具体的な対策を
- ・目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう



お問い合わせ先

 三菱化工機株式会社

川崎市幸区堀川町 580 番地
ソリッドスクエア東館

企画部 広報・CSR 課
電話 044-333-5377 Fax 044-577-7754